

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	1年とも言えずに利用者の心身両面の機能低下がみられる。身体的には、1ヶ月前には歩行ができた方も、入院に寄り車椅子利用になったり、認知症の進行による物事の判断や行動への変化が懸念される。	少なくとも体力的に現状維持ができるよう運動機能の低下を防ぐ。生活上の動きを自力で継続できるよう支援していく。運動機能を推進するゲームや散歩などを行っていく。	風船バレーや輪投げ・さまざまなゲームの工夫をし利用者全員が楽しめるようにしていく。歩行運動の日常化を図り、1日の運動量を到達表に表し日々の励みにしていく。	1年間
2	35	3月11日の震災のような状況は頻回に発生するとは思えないが、「備えあれば憂いなし」避難訓練等を地域の協力を得ながら継続していく。物資(非常食・生活用品等)も多少は準備したが、期間が長期化すると、確保が大変だった。	火災・地震・風水害などの災害時に安全に避難したり、対処できるよう訓練をしていく。	隣接するデイサービスと協力して避難訓練をしていく。夜間を想定した訓練も地域の方々や消防署の協力を得て行っていく。(非常食品や水・防災用品の確保、備蓄も行う)	1年間
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。